

また、これら項目ごとの充足度の変化を領域別にみると（表3-2-8）、今回調査の特徴としては、「安全と個人の保護」「快適」領域などで充足度が相対的に高くなった反面、「教養・文化」「社会福祉」領域などの充足度が低下したことが挙げられるが、全体的には、「消費生活」「労働・雇用」「余暇」などの領域の充足度が一貫して低く、反面、「医療と保健」「利便」などの領域は比較的高い充足度を保っている。

表3-2-8 領域別充足度得点の比較

領 域	昭和54年		昭和59年		平成2年		平成7年	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
教養・文化	4	2.64	5	2.75	9	2.89	1	2.51
労働・雇用	3	2.46	3	2.54	2	2.55	2	2.51
社会福祉	7	2.85	7	2.95	7	2.84	3	2.51
消費生活	1	2.31	1	2.41	1	2.48	4	2.55
余暇	2	2.36	2	2.47	3	2.55	5	2.59
住宅	6	2.72	4	2.72	4	2.69	6	2.69
教育	9	2.99	9	3.03	8	2.84	7	2.71
地域活動	12	3.11	10	3.13	10	3.06	8	2.73
安全と個人の保護	5	2.69	6	2.79	6	2.83	9	2.81
医療と保健	10	3.09	11	3.18	12	3.35	10	3.03
利便	11	3.10	12	3.21	11	3.29	11	3.07
快適	8	2.91	8	2.96	5	2.79	12	3.15
県 計		2.76		3.82		2.83		2.74

（注）安全と個人の保護は、防犯と安全の平均得点である。

### 3 生活の各側面に対するニーズ

これまで、県民生活に関する個別具体的な項目について、その重要度と充足度をみてきたが、生活に対するニーズは、両者とも関係しているため、以下の式で定義されるニーズ得点を算出し、県民のニーズに関する評価の指標（ニーズ得点）とした。

$$\text{ニーズ得点} = \text{重要度得点} \times (6 - \text{充足度得点})$$

ここで、(6-充足度得点)は未充足度を意味し、ニーズ得点は、重要度、充足度によって変化し、重要度が高いにもかかわらず充足されていない項目ほど、高くなるという関係にある。

項目別にニーズ得点をみると（表3-3-1）、最も高いのは「夜遊びや非行の防止」で、次いで、「老後に不安のない年金」「失業の不安の解消」「税負担の公平さ」「物価の安定」の順となっており、一方、低い項目としては、「地域行事への参加」「買い物の利便性」「集会場や公民館の利用機会」「女性の職場進出」「自治会等の充実」等となっている。

ニーズ得点1位の「夜遊びや非行の防止」(15.53)から、61位の「地域行事への参加」(9.07)まで、6.46ポイントの幅に分布し、最低の項目でも「どちらともいえない」(9点)の平均的なニーズ得点を上回っている。また、全項目(61項目)の平均得点は12.49となっており、総体として県民の生活項目へのニーズはかなり強いといえる。

表3-3-1 ニーズ得点

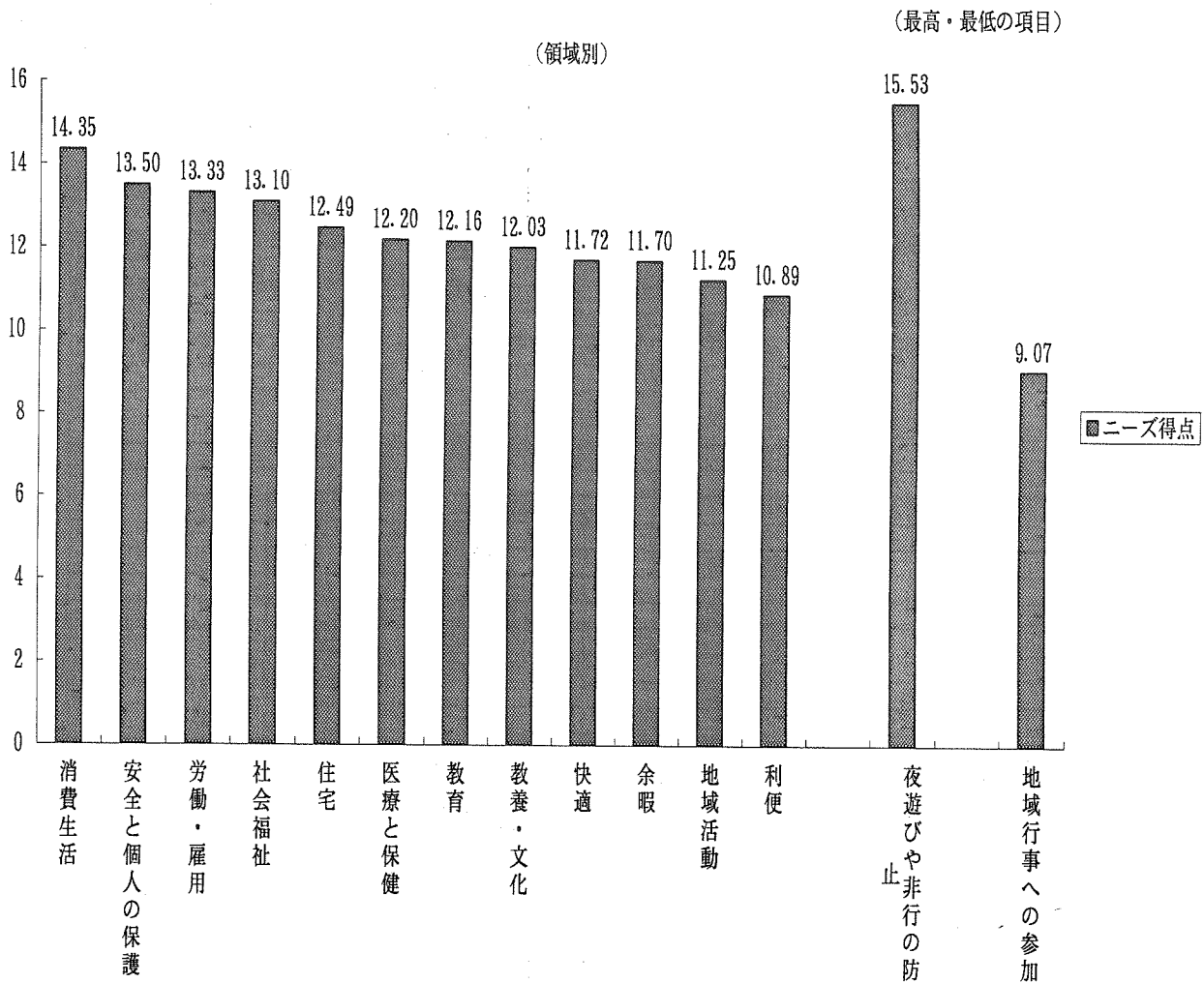
領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 ( $\sigma$ )	変動係数 ( $\sigma/M$ )	領域別 平均得点
医療と保健	1. 体力の維持・増強	12.32	5.46	44.3	12.20
	2. 費用の心配のない医療	12.60	6.01	47.7	
	3. 適切な診療	12.08	5.51	45.6	
	4. 病気の予防・健康相談	11.45	5.29	46.2	
	5. 救急患者の適切な治療	12.54	5.42	43.2	
教育	6. 幼稚園施設・内容の充実	10.15	4.95	48.8	12.16
	7. 小・中・高校の施設の整備	10.53	5.16	49.0	
	8. 小・中学校での能力を伸ばす教育	11.95	5.52	46.2	
	9. 高校での各人に適した教育	11.93	5.60	46.9	
	10. 大学教育の解放	12.18	5.98	49.1	
	11. 各種・専修学校の充実	12.86	6.42	49.9	
教養・文化	12. 夜遊びや非行の防止	15.53	6.71	43.2	12.03
	13. 文化施設の整備	12.58	6.20	49.3	
	14. 生涯学習の機会	12.54	5.75	45.9	
労働・雇用	15. 伝統工芸の振興	10.96	5.22	47.6	13.33
	16. 失業の不安の解消	15.32	6.79	44.3	
	17. 仕事のやりがい	14.35	6.64	46.3	
	18. 職場での安全確保	11.90	5.52	46.4	
	19. 職場内での男女の平等	12.96	5.92	45.7	
	20. 女性の職場進出	9.87	4.55	46.1	
	21. 老人・身障者の就業機会	14.16	5.88	41.5	
	22. 職業・居住地選択の事由	14.23	6.27	44.1	
住宅	23. 職業紹介・訓練の充実	13.83	6.18	44.7	12.49
	24. 持ち家の取得	13.33	7.49	56.2	
	25. 各家族員の個室の確保	12.15	6.89	56.7	
	26. 良好な住環境	11.98	6.41	53.5	
利便	27. 交通機関の利便性	11.10	6.13	55.2	10.89
	28. 渋滞の解消	12.46	6.41	51.4	
	29. 買物の利便性	9.29	5.31	57.2	
	30. 生活情報の得やすさ	10.71	5.31	49.6	
快適	31. 水使用の安心	10.08	5.57	55.3	11.72
	32. ごみ、下水の衛生処理	11.49	5.90	51.3	
	33. 公園や親しめる自然環境	12.03	6.20	51.5	
	34. 公害の防止	13.27	6.55	49.4	

表3-3-1 ニーズ得点(続き)

領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 ( $\sigma$ )	変動係数 ( $\sigma/M$ )	領域別 平均得点
安全と個人	35. 米軍基地の安全管理の確保	13.17	6.63	50.3	13.50
	36. 防災対策の充実	13.73	5.81	42.3	
	37. 交通安全の確保	14.52	6.15	42.4	
	38. 犯罪の防止	13.06	5.90	45.2	
	39. 法律適用の公正さ	13.00	5.39	41.5	
消費生活	40. 収入の着実な増加	15.05	6.20	41.2	14.35
	41. 物価の安定	15.11	5.89	39.0	
	42. 老後に不安のない年金	15.47	6.08	39.3	
	43. 税負担の公平さ	15.20	5.94	39.1	
	44. 商品・サービスの安全性の確保	12.41	5.21	42.0	
	45. 商品・サービスの苦情処理の充実	12.84	5.53	43.1	
余暇	46. 労働時間の短縮	13.37	6.32	47.3	11.70
	47. 家族とのコミュニケーションの確保	12.53	5.90	47.1	
	48. グラウンドや体育館の整備	11.20	5.77	51.5	
	49. 趣味の会への参加の機会	10.88	5.30	48.7	
	50. 多様な宿泊施設の整備	10.52	5.39	51.2	
社会福祉	51. 家事、育児、教育相談の充実	12.26	5.65	46.1	13.10
	52. 福祉施設やサービスの充実	14.79	6.18	41.8	
	53. 独居老人や母子家庭の安心	14.72	6.17	41.9	
	54. 保育所の充実	11.95	5.88	49.2	
	55. 学童保育所の充実	11.80	5.81	49.2	
地域活動	56. 地域行事への参加	9.07	4.83	53.3	11.25
	57. 集会場や公民館の利用機会	9.64	5.05	52.4	
	58. 自治会等の充実	10.00	5.03	50.3	
	59. 住民意見の行政への反映	12.97	5.69	43.9	
	60. ボランティア	13.07	5.55	42.5	
	61. 相互扶助	12.72	5.35	42.1	
		12.49	5.83	47.1	

また、領域別のニーズ得点をみると（図3-3-1）、「消費生活」が14.35で最も高く、以下、「安全と個人の保護」「労働・雇用」「社会福祉」領域と続き、一方、「便利」「地域活動」「余暇」「快適」等に対するニーズは、相対的に弱い状況となっている。

図3-3-1 ニーズ得点



### (1) ニーズ得点の高い項目と低い項目

ニーズ得点の高い項目と低い項目を、それぞれ15位まで順に抜き出したのが、表3-3-2、表3-3-3である。

まず、ニーズ得点の高い項目をみると、老後に不安のない年金、税負担の公平さ、物価の安定、収入の着実な増加など「消費生活」領域に関するものをはじめ、交通安全の確保、防災対策の充実など「安全と個人の保護」領域に関するもの、失業の不安の解消、仕事のやりがい、職業・居住地選択の自由、老人・身障者の就業機会、職業紹介・訓練の充実など「労働・雇用」領域に関するものが多い。「消費生活」や「労働・雇用」領域については、相対的に重要度が高いにもかかわらず

充足度が低くなっていることから、ニーズが強くなっているものとみられ、「安全と個人の保護」領域については、重要度が最も高いためにニーズが強く出ているものとみられる。

これら以外に、ニーズ得点の高い項目としては、福祉施設やサービスの充実、独居老人や母子家庭の安心などの「社会福祉」領域や、夜遊びや非行の防止、労働時間の短縮などがあり、県民の生活上の関心が、基礎的な生活環境の整備のみならず、教育、社会福祉、余暇面など、より多様で高次の問題にも向けられていることが分る。

また、ニーズ得点の上位15項目の動きを、前回調査との比較で見ると、夜遊びや非行の防止（13位→1位）、老後に不安のない年金（10位→2位）、防災対策の充実（20位→14位）などが目立って順位を上げている。夜遊びや非行の防止は、充足度が大幅に低下したこと、老後に不安のない年金は、重要度が上昇しかつ、充足度が低下したこと、防災対策は、重要度が上昇したことがそれぞれのニーズ得点を押し上げる要因となっているが、これらは、バブル崩壊後の長引く不況やいじめ問題、阪神・淡路大震災など、調査時点における経済社会の問題点を如実に反映しているものといえよう。

表3-3-2 ニーズ得点の高い項目

領 域	番 号	項 目	平成2年		平成7年	
			順位	得点	順位	得点
教育	12	夜遊びや非行の防止	13	14.32	1	15.53
消費生活	42	老後に不安のない年金	10	14.99	2	15.47
労働・雇用	16	失業の不安の解消	4	15.75	3	15.32
消費生活	43	税負担の公平さ	1	16.21	4	15.20
消費生活	41	物価の安定	2	15.96	5	15.11
消費生活	40	収入の着実な増加	6	15.39	6	15.05
社会福祉	52	福祉施設やサービスの充実	5	15.50	7	14.79
社会福祉	53	独居老人や母子家庭の安心	8	15.16	8	14.72
安全と個人の保護	37	交通安全の確保（改定）	3	15.85	9	14.52
労働・雇用	17	仕事のやりがい	12	14.65	10	14.35
労働・雇用	22	職業・居住地選択の自由	11	14.68	11	14.23
労働・雇用	21	老人・身障者の就業機会	9	15.01	12	14.16
労働・雇用	23	職業紹介・訓練の充実	17	13.56	13	13.83
安全と個人の保護	36	防災対策の充実	20	13.46	14	13.73
余暇	46	労働時間の短縮（改定）	27	12.98	15	13.37

平成2年上位15項目中、上記に記載されていない項目

領 域	番 号	項 目	順位	備 考	
				平成7年調査項目との比較	順位
安全	37	基地の安全管理の確保	7	35米重基地の安全管理の確保	18
快適	36	公害防止の充実	14	34公害の防止	17
消費生活	45	商品苦情相談の充実	15	45商品・サービスの苦情処理の充実	25

（注）（改定）については項目の統合を行っているため厳密には接続しない。

一方、ニーズ得点の低い項目をみると、買い物の利便性、生活情報の得やすさ、交通機関の利便性など「便利」領域に関するものが多く、次いで、地域行事への参加、集会場や公民館の利用機会、自治会等の充実など「地域活動」領域や、多様な宿泊施設の整備、趣味の会への参加の機会、グラウンドや体育館の整備など「余暇」領域に関するものが多くなっている。また、これらの他、水使用の安心、伝統工芸の振興、幼稚園施設・内容の充実、小・中・高校の施設の整備、病気の予防・健康相談、

女性の職場進出などの項目が挙っているが、「利便」や「快適」領域のように、既に充足度がかなり高くなっているものと、「余暇」や「地域活動」のように充足度は未だ高くはないが重要度が低い水準にあるために、ニーズ得点が低いものに分けることができる。

また、前回調査との比較では、ニーズ得点の順位にはあまり大きな変動はみられず、趣味の会への参加の機会（16位→11位）が低下したのに対して、相互扶助（7位→36位）、保育所の充実（11位→20位）、適切な診療（12位→24位）などの順位が上昇している。

表 3-3-3 ニーズ得点の低い項目

領 域	番 号	項 目	平成2年		平成7年	
			順位	得点	順位	得点
地域活動	56	地域行事への参加	1	8.89	1	9.07
利便	29	買物の利便性	2	9.35	2	9.29
地域活動	57	集会場や公民館の利用機会	3	9.51	3	9.64
労働・雇用	20	女性の職場進出	平成7年新規		4	9.87
地域活動	58	自治会等の充実	5	10.13	5	10.00
快適	31	水使用の安心	4	9.86	6	10.08
教育	6	幼稚園施設・内容の充実	6	10.29	7	10.15
余暇	50	多様な宿泊施設の整備	8	10.45	8	10.52
教育	7	小・中・高校の施設の整備	9	10.82	9	10.53
利便	30	生活情報の得やすさ	13	11.20	10	10.71
余暇	49	趣味の会への参加の機会	16	11.59	11	10.88
教養・文化	15	伝統工芸の振興	10	11.00	12	10.96
利便	27	交通機関の利便性	15	11.22	13	11.10
余暇	48	グラウンドや体育館の整備	17	11.61	14	11.20
医療と保健	4	病気の予防・健康相談	14	11.21	15	11.45

平成2年下位15項目中、上記に記載されていない項目

領 域	番 号	項 目	順位	備 考	
				平成7年調査項目との比較	順位
地域活動	61	近隣とのつきあい	7	61相互扶助	36
社会福祉	60	保育の機会	11	54保育所の充実	20
医療と保健	1	診療・治療の機会	12	3適切な診療	24

(注) (改定)については項目の統合を行っているため厳密には接続しない。

## (2) 領域別の比較

次に、領域ごとのニーズ得点の平均値を算出し、その順位と上下15位に入った項目数についてみると（表3-3-4）、1位が「消費生活」領域、2位が「安全と個人の保護」、3位が「労働・雇用」、4位が「社会福祉」領域と続き、逆に得点の低いのは「利便」「地域活動」「余暇」「快適」などの領域となっている。得点の最も高い「消費生活」領域では、バブル崩壊後の長引く不況による影響などから、老後に不安のない年金や収入の着実な増加等に対するニーズの強さが目立ち、税負担の公平さや物価の安定に対するニーズも高くなっている。また、2位の「安全と個人の保護」領域では、交通三悪による事故の多さを反映して、交通ルールとマナーの遵守に対するニーズが高くなっており、3位の「労働・雇用」領域では、本県の厳しい雇用情勢から、失業の不安の解消に対するニーズが強くなっている。

領域別に上下15位に入った項目数をみると、最も得点の高い「消費生活」領域では、6項目中4項目が上位に入っており、次いで「安全と個人の保護」が5項目中2項目、「労働・雇用」が8項目中5項目、「社会福祉」が5項目中2項目となっているが、得点が最も低い「利便」領域では、4項目中3項目が下位に入ったほか、「地域活動」が6項目中3項目、「余暇」が5項目中3項目となっている。平均得点が最も高い「消費生活」領域と、最も低い「利便」領域では、得点に3.46ポイントの開きがあり、領域の平均得点の大小と上下15位に入った項目数の間には相関がみられることから、領域間のニーズの強さに差があるものと認められる。

このように、「快適」や「医療と保健」領域などのように充足度が高いためにニーズが比較的弱くなっている領域もあるが、「消費生活」や「労働・雇用」などのように重要度が高くかつ、充足度の低い領域でニーズは強くなっている。

表3-3-4 領域別にみたニーズ得点

順位	領域	領域ごとの平均得点	上位15位に入った項目数	下位15位に入った項目数
1	消費生活	14.35	4/6	
2	安全と個人の保護	13.50	2/5	
3	労働・雇用	13.33	5/8	1/8
4	社会福祉	13.10	2/5	
5	住宅	12.49		
6	医療と保健	12.20		1/5
7	教育	12.16	1/7	2/7
8	教養・文化	12.03		1/3
9	快適	11.72		1/4
10	余暇	11.70	1/5	3/5
11	地域活動	11.25		3/6
12	利便	10.89		3/4

(注) 分母の数字は、各領域の項目数

### (3) 地域別のニーズ得点

次に、地域別、領域別のニーズ得点をみると（表3-3-5）、八重山地域が12領域中9領域で1位となっており、特に「教育」「消費生活」「社会福祉」領域などのニーズが相対的に高く、全体で最もニーズ得点の高い地域となった。また、那覇市は、「住宅」領域を中心に比較的ニーズ得点の高い領域が多く、八重山に次いで2位となっている。一方、北部地域は、「教育」領域を除く11の領域で全体の平均値を下回り、全体で最もニーズ得点の低い地域となった。また、宮古地域では、「教養・文化」「地域活動」領域で比較的高いニーズを示したが、「住宅」「利便」「安全と個人の保護」「消費

生活」などのニーズ得点が最も低く、全体では北部に次いでニーズ得点の低い地域となった。なお、中部地域は、「利便」「快適」領域でニーズ得点が高く、「教養・文化」領域で低くなっているほかは、中位のニーズを示し、南部地域は、「教育」領域を除く全ての領域で中位のニーズ水準となっている。

表3-3-5 地域別・領域別のニーズ得点

領域	北部		中部		那覇市		南部		宮古		八重山		県計
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
医療と保健	6	11.85	2	12.28	3	12.19	5	12.04	4	12.06	1	13.11	12.20
教育	2	12.28	3	12.26	4	12.12	6	11.61	5	11.77	1	13.97	12.16
教養・文化	5	11.98	6	11.92	4	11.99	2	12.16	3	12.08	1	12.78	12.03
労働・雇用	3	13.22	2	13.57	6	13.01	4	13.17	5	13.02	1	14.02	13.33
住宅	5	11.34	3	12.45	1	13.93	4	11.54	6	10.49	2	13.17	12.49
利便	5	9.93	1	11.34	3	10.90	2	11.00	6	9.15	4	10.01	10.89
快適	6	10.50	1	12.13	3	11.92	4	11.24	5	11.13	2	12.04	11.72
安全と個人の保護	4	12.78	2	14.01	3	13.60	5	12.68	6	12.26	1	14.30	13.50
消費生活	5	13.89	3	14.47	2	14.49	4	13.94	6	13.87	1	15.63	14.35
余暇	6	10.68	3	11.73	2	12.17	4	11.39	5	11.30	1	12.91	11.70
社会福祉	6	12.53	3	13.08	2	13.48	4	12.78	5	12.74	1	14.40	13.10
地域活動	6	10.50	4	11.13	2	11.99	5	10.57	3	11.83	1	12.26	11.25
計	6	11.79	3	12.53	2	12.65	4	12.01	5	11.81	1	13.22	12.39

(注) 順位は、各領域の地域間の順位である。

これを地域別の項目順位でみると(表3-3-6)、ニーズ得点が最も高かったのは、北部と那覇、八重山においては夜遊びや非行の防止、中部が老後に不安のない年金、南部が税負担の公平さ、宮古が福祉施設やサービスの充実となっている。また、2位については、北部と南部が失業の不安の解消、中部が夜遊びや非行の防止、那覇が老後に不安のない年金、宮古が職業紹介・訓練の充実、八重山が防災訓練の充実となっており、3位は北部が税負担の公平さ、中部が失業の不安の解消、那覇が収入の着実な増加、南部と宮古が老後に不安のない年金、八重山が物価の安定となっている。このように地域別のニーズ得点は、項目ごとの重要度や充足度の違いによって増幅され、かなりの差がみられる。北部、中部、那覇、八重山では、夜遊びや非行の防止、老後に不安のない年金のどちらかのニーズ得点が1位となっているが、南部は税負担の公平さ、宮古は福祉施設やサービスの充実のニーズが最も強くなっている。また、宮古では夜遊びや非行の防止が10位、八重山では失業の不安の解消が12位と低くなっており、他の地域と異なるニーズを示している。

また、地域別の項目順位を県計の順位と比較すると、ニーズ得点の最も高かった八重山地域では、防災対策の充実に対するニーズが相対的に高いほか、各種・専修学校の充実、小・中学校での能力を伸ばす教育、ごみ・下水の衛生処理などのニーズが高くなっているが、逆に、米軍基地の安全管理の確保、渋滞の解消などのニーズは低くなっている。また、那覇市では、各家族員の個室の確保、良好な住環境などに対するニーズが高くなっているのに対して、職場内での男女の平等、各種・専修学校の充実などは相対的に低いニーズとなっている。一方、最もニーズ得点の低かった北部地域では、各種・専修学校の充実、職場での安全確保などのニーズは高くなっているが、反面、公害の防止、犯罪の防止などの低さが目立ち、また、宮古地域でも、各種・専修学校の充実、費用の心配のない医療などは高かったが、防災対策の充実をはじめ、持家の取得、公害の防止、渋滞の解消などニーズの低い項目が多かった。その他の地域では、南部地域が文化施設の整備、救急患者の適切な治療などのニーズが高い反面、公害の防止、法律適用の公正さなどのニーズが低く、また、中部地域では米軍基地の安全管理の確保などのニーズが比較的高い状況となっている。



表3-3-6 地域別・項目別ニーズ得点順位表

県 項 目	計 順 位	地 域 別					
		北 部	中 部	那覇市	南 部	宮 古	八重山
12. 夜遊びや非行の防止	1	1	2	1	5	10	1
42. 老後に不安のない年金	2	4	1	2	3	3	4
16. 失業の不安の解消	3	2	3	6	2	8	12
43. 税負担の公平さ	4	3	5	7	1	9	10
41. 物価の安定	5	5	6	5	4	13	3
40. 収入の着実な増加	6	11	4	3	8	7	11
52. 福祉施設やサービスの充実	7	6	8	8	7	1	5
53. 独居老人や母子家庭の安心	8	13	10	4	6	6	8
37. 交通安全の確保	9	12	7	9	13	15	6
17. 仕事のやりがい	10	10	9	11	10	19	13
22. 職業・居住地選択の自由	11	7	11	14	11	11	9
21. 老人・身障者の就業機会	12	14	13	12	9	5	14
23. 職業紹介・訓練の充実	13	9	15	22	12	2	19
36. 防災対策の充実	14	15	16	13	15	27	2
46. 労働時間の短縮	15	17	19	16	17	17	17
24. 持ち家の取得	16	20	22	10	21	47	16
34. 公害の防止	17	44	14	15	33	39	31
35. 米軍基地の安全管理の確保	18	28	12	26	32	45	54
60. ボランティア	19	21	23	17	23	12	21
38. 犯罪の防止	20	32	17	23	29	30	28
39. 法律適用の公正さ	21	22	18	25	31	24	26
59. 住民意見の行政への反映	22	26	25	21	25	18	15
19. 職場内での男女の平等	23	18	21	38	16	22	36
11. 各種・専修学校の充実	24	8	24	47	18	4	7
45. 商品・サービスの苦情処理の充実	25	16	27	29	20	16	18
61. 相互扶助	26	25	29	24	34	20	22
2. 費用の心配のない医療	27	24	28	37	27	14	33
13. 文化施設の整備	28	19	34	35	14	29	40
5. 救急患者の適切な治療	29	30	30	32	19	23	29
14. 生涯学習の機会	30	27	31	31	22	25	20
47. 家族とのコミュニケーションの確保	31	37	26	27	38	32	35

表3-3-6 地域別・項目別二一ズ得点順位表(続き)

県 項 目	計 順 位	地 域 別					
		北 部	中 部	那覇市	南 部	宮 古	八重山
28. 渋滞の解消	32	51	20	20	26	61	61
44. 商品・サービスの安全性の確保	33	23	35	40	24	21	25
1. 体力の維持・増強	34	33	33	30	39	26	34
51. 家事、育児、教育相談の充実	35	40	32	33	35	34	32
10. 大学教育の解放	36	31	37	36	41	31	27
25. 各家族員の個室の確保	37	45	43	19	42	44	39
3. 適切な診療	38	38	38	45	28	33	37
33. 公園や親しめる自然環境	39	46	39	28	30	41	52
26. 良好な住環境	40	48	36	18	51	52	45
8. 小・中学校での能力を伸ばす教育	41	34	41	41	45	42	24
54. 保育所の充実	42	39	44	34	37	40	41
9. 高校での各人に適した教育	43	36	40	42	48	35	30
18. 職場での安全確保	44	29	42	44	36	38	47
55. 学童保育所の充実	45	35	45	43	43	43	38
32. ごみ、下水の衛生処理	46	41	47	49	46	28	23
4. 病気の予防・健康相談	47	43	46	46	44	53	46
48. グラウンドや体育館の整備	48	54	50	39	47	55	44
27. 交通機関の利便性	49	52	48	54	40	48	49
15. 伝統工芸の振興	50	42	51	51	49	36	51
49. 趣味の会への参加の機会	51	56	52	48	50	37	43
30. 生活情報の得やすさ	52	47	49	56	52	57	50
7. 小・中・高校の施設の整備	53	50	53	55	53	59	48
50. 多様な宿泊施設の整備	54	55	55	52	54	49	42
6. 幼稚園施設・内容の充実	55	49	56	58	56	54	53
31. 水使用の安心	56	57	54	57	58	56	59
58. 自治会等の充実	57	58	58	50	59	46	55
20. 女性の職場進出	58	53	57	60	55	58	56
57. 集会場や公民館の利用機会	59	60	60	53	60	50	57
29. 買物の利便性	60	59	59	61	57	60	60
56. 地域行事への参加	61	61	61	59	61	51	58

#### (4) ニーズ得点の時系列比較

次に、ニーズ得点の水準が昭和54年、59年、平成2年と比べてどのように変化したかをみるため、時系列比較し、その変化の方向を整理したのが表3-3-7である。なお、前述のとおり、全体を通して比較可能なのは61項目中42項目で、昭和59年については43項目、平成2年については50項目が比較可能である。

全体を通覧すると、昭和54年→59年のニーズ得点は、重用度得点が全ての項目で低下する一方、充足度得点が多く項目で上昇したことから、42項目中41項目でニーズ得点が低下した。また、59年→平成2年においても、充足度の上昇項目数が比較的多かったため、ニーズ得点は43項目中28項目で低下している。一方、平成2年→7年は、重要度得点が全ての項目で低下したのに対し、充足度得点も多く項目で低下した結果、ニーズ得点は50項目中33項目で低下している。

ニーズ得点が目立って上昇した項目をみると、昭和54年→59年では、収入の着実な増加の1項目であったが、59年→平成2年では、各種・専修学校の充実が最も上昇し、以下、持家の取得、福祉施設やサービスの充実等の順となっており、平成2年→7年では、相互扶助が最も上昇し、次いで、夜遊びや非行の防止、適切な診療、保育所の充実等が続いている。一方、ニーズ得点の低下した項目をみると、昭和54年→59年では、物価の安定をはじめ、保育所の充実、文化施設の整備などの低下が大きく、59年→平成2年では、物価の安定、病気の予防・健康の相談、失業の不安の解消等の項目の低下が目立った。さらに、平成2年→7年では、米軍基地の安全管理の確保、ごみ・下水の衛生処理、商品・サービスの苦情処理の充実などの低下が大きくなっている。

このように県民のニーズは、その時々を経済社会状況の変化に影響を受ける面が大きいものと考えられるが、総体的には、生活環境の整備の進展や生活水準の上昇等と相まって、低下する項目が増加する傾向を示している。

表 3 - 3 - 7 ニーズ得点の時系列比較

領域	項目	昭和54年	昭和59年	平成2年	平成7年	59年-54年	2年-59年	7年-2年
医療と保健	1. 体力の維持・増強 (新規)	-	-	-	12.32	-	-	-
	2. 費用の心配のない医療	13.64	12.32	12.44	12.60	-1.32	0.12	0.16
	3. 適切な診療	13.14	12.04	11.06	12.08	-1.10	-0.98	1.02
	4. 病気の予防・健康相談	13.17	12.43	11.21	11.45	-0.74	-1.22	0.24
	5. 救急患者の適切な治療	14.09	12.98	12.31	12.54	-1.11	-0.67	0.23
教育	6. 幼稚園施設・内容の充実	11.83	10.65	10.29	10.15	-1.18	-0.36	-0.14
	7. 小・中・高校の施設の整備	12.21	10.89	10.82	10.53	-1.32	-0.07	-0.29
	8. 小・中学校での能力を伸ばす教育 (新規)	-	-	-	11.95	-	-	-
	9. 高校での各人に適した教育 (新規)	-	-	-	11.93	-	-	-
	10. 大学教育の解放	-	-	11.93	12.18	-	-	0.25
	11. 各種・専修学校の充実	12.53	11.37	13.05	12.86	-1.16	1.68	-0.19
教養・文化	12. 夜遊びや非行の防止	15.25	14.36	14.32	15.53	-0.89	-0.04	1.21
	13. 文化施設の整備 ※	14.26	12.75	12.58	12.58	-1.51	-0.17	0.00
	14. 生涯学習の機会	-	-	12.70	12.54	-	-	-0.16
労働・雇用	15. 伝統工芸の振興	12.04	11.19	11.00	10.96	-0.85	-0.19	-0.04
	16. 失業の不安の解消	17.67	16.96	15.75	15.32	-0.71	-1.21	-0.43
	17. 仕事のやりがい	16.18	15.11	14.65	14.35	-1.07	-0.46	-0.30
	18. 職場での安全確保	12.93	12.08	11.95	11.90	-0.85	-0.13	-0.05
	19. 職場内での男女の平等	13.56	13.00	13.22	12.96	-0.56	0.22	-0.26
	20. 女性の職場進出 (新規)	-	-	-	9.87	-	-	-
	21. 老人・身障者の就業機会	15.92	14.93	15.01	14.16	-0.99	0.08	-0.85
	22. 職業・居住地選択の自由	15.36	14.69	14.68	14.23	-0.67	-0.01	-0.45
	23. 職業紹介・訓練の充実	-	-	13.56	13.83	-	-	0.27
住宅	24. 持ち家の取得	13.74	13.21	13.65	13.33	-0.53	0.44	-0.32
	25. 各家族員の個室の確保	-	12.57	12.70	12.15	-	0.13	-0.55
	26. 良好な住環境	12.29	12.09	11.80	11.98	-0.20	-0.29	0.18
利便	27. 交通機関の利便性	12.31	11.71	11.22	11.10	-0.60	-0.49	-0.12
	28. 渋滞の解消 (新規)	-	-	-	12.46	-	-	-
	29. 買物の利便性	10.79	10.40	9.35	9.29	-0.39	-1.05	-0.06
	30. 生活情報の得やすさ	-	-	11.20	10.71	-	-	-0.49
快適	31. 水使用の安心	9.63	9.50	9.86	10.08	-0.13	0.36	0.22
	32. ごみ、下水の衛生処理	13.95	13.39	12.96	11.49	-0.56	-0.43	-1.47
	33. 公園や親しめる自然環境 (改定)	14.35	13.71	13.13	12.03	-0.64	-0.59	-1.10
	34. 公害の防止	14.72	14.23	14.14	13.27	-0.49	-0.09	-0.87

表3-3-7 ニーズ得点の時系列比較(続き)

領域	項目	昭和54年	昭和59年	平成2年	平成7年	59年-54年	2年-59年	7年-2年
安全と個人	35. 米軍基地の安全管理の確保	15.06	14.91	15.23	13.17	-0.15	0.32	-2.06
	36. 防災対策の充実	14.16	13.55	13.46	13.73	-0.61	-0.09	0.27
	37. 交通安全の確保 (改定)	17.47	16.06	15.85	14.52	-1.41	-0.21	-1.33
	38. 犯罪の防止	14.82	13.48	13.24	13.06	-1.34	-0.24	-0.18
	39. 法律適用の公正さ	14.34	13.69	13.56	13.00	-0.65	-0.13	-0.56
消費生活	40. 収入の着実な増加	16.19	16.49	15.39	15.05	0.30	-1.10	-0.34
	41. 物価の安定	19.56	17.53	15.96	15.11	-2.03	-1.57	-0.85
	42. 老後に不安のない年金	15.70	15.23	14.99	15.47	-0.47	-0.24	0.48
	43. 税負担の公平さ	-	-	16.21	15.20	-	-	-1.01
	44. 商品・サービスの安全性の確保 (新規)	-	-	-	12.41	-	-	-
余暇	45. 商品・サービスの苦情処理の充実	15.16	14.01	14.13	12.84	-1.15	0.12	-1.29
	46. 労働時間の短縮 (改定)	12.72	12.44	12.98	13.37	-0.28	0.54	0.40
	47. 家族とのコミュニケーションの確保 (新規)	-	-	-	12.53	-	-	-
	48. グラウンドや体育館の整備	13.80	12.31	11.61	11.20	-1.49	-0.70	-0.41
	49. 趣味の会への参加の機会	13.23	11.78	11.59	10.88	-1.45	-0.19	-0.71
社会福祉	50. 多様な宿泊施設の整備 ※	-	-	10.45	10.52	-	-	0.07
	51. 家事、育児、教育相談の充実	14.15	13.01	13.16	12.26	-1.14	0.15	-0.90
	52. 福祉施設やサービスの充実	16.24	15.08	15.50	14.79	-1.16	0.42	-0.71
	53. 独居老人や母子家庭の安心	16.11	14.82	15.16	14.72	-1.29	0.34	-0.44
	54. 保育所の充実	13.33	11.77	11.05	11.95	-1.56	-0.72	0.90
地域活動	55. 学童保育所の充実 (新規)	-	-	-	11.80	-	-	-
	56. 地域行事への参加	9.30	8.75	8.89	9.07	-0.55	0.14	0.18
	57. 集会場や公民館の利用機会	10.68	9.69	9.51	9.64	-0.99	-0.18	0.13
	58. 自治会等の充実	11.02	10.08	10.13	10.00	-0.94	0.05	-0.13
	59. 住民意見の行政への反映	15.02	14.04	13.56	12.97	-0.98	-0.48	-0.59
	60. ボランティア	-	-	13.17	13.07	-	-	-0.10
61. 相互扶助 ※	10.56	10.27	10.44	12.72	-0.29	0.17	2.28	

(注) 表3-1-7参照

また、これら項目ごとのニーズ得点の変化を領域別にみると（表3-3-8）、領域間のニーズの強弱の順位には大きな変動はみられず、特に、「消費生活」をはじめ、「安全と個人の保護」「労働・雇用」「社会福祉」領域の順位は、調査開始以来不動である。今回調査の特徴としては、「医療と保健」「教育」領域の順位が若干上昇した反面、「快適」「余暇」領域が低下した点が挙げられるが、県民の各領域に対するニーズの強弱は、ほぼ同傾向で推移しているといえよう。

表3-3-8 領域別ニーズ得点の比較

領 域	昭和54年		昭和59年		平成2年		平成7年	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
消費生活	1	16.32	1	15.49	1	15.34	1	14.35
安全と個人の保護	2	15.30	2	14.61	2	14.41	2	13.50
労働・雇用	3	14.57	3	13.85	3	13.89	3	13.33
社会福祉	4	13.97	4	12.99	4	13.43	4	13.10
住宅	9	12.60	5	12.94	5	13.24	5	12.49
医療と保健	6	13.51	7	12.69	9	11.78	6	12.20
教育	10	12.59	9	11.65	7	11.94	7	12.16
教養・文化	8	12.76	10	11.37	10	11.75	8	12.03
快適	5	13.56	6	12.88	6	12.72	9	11.72
余暇	7	13.12	8	12.24	8	11.92	10	11.70
地域活動	12	11.32	11	10.96	12	10.95	11	11.25
利便	11	11.85	12	10.79	11	10.95	12	10.89
県 計		13.79		12.94		12.89		12.39

（注） 安全と個人の保護は、防犯と安全の平均得点である。